

塵芥センター

フラフ製造量を増産

年内に破砕機導入へ

産廃・一廃の収集運搬、中間処理、リサイクル、最終処分などを総合的に手掛ける塵芥センター(香川県高松市、平尾範明社長、087・886・3040)は、製紙メーカーに供給しているフラフの製造量を月間11

0トから同300トまで増産する。現在、シンカイ・リサイクルアクトリ(高松市)で、フラフ製造を進めているが、年内にも新たに破砕機を導入する計画。製紙メーカーからの要望によるもので、安定供給を視野に事業

拡大を目指す。

シンカイ・リサイクルアクトリは、1軸破砕機、2軸破砕機、混合廃棄物選別ライン、固形燃料化ライン、圧縮梱包ライン、石膏ボード破砕選別ライン、発泡スチロール減容化ラインなどで構成される。屋外には水洗

循環集じん装置も設置し、周辺環境への影響を解消している。同施設は四国で最大規模の710ト/日の処理能力を持つ。

塵芥センターは、1971年の設立で一般廃棄物処理業から開始した。1977年に焼却処分施設を設置した

後、一般廃棄物最終処分場(1983年)、産業廃棄物最終処分場(1986年)をオープンした。

同社は「産業廃棄物の減量と、限界点を迎えたところからの処理方法に代わるリサイクル体制の確立は社会的な急務となっている。塵芥センターは、地域の廃棄物処理の一端を担うものとして新しい時代に望まれる廃棄物処理の最先端を常に探し求め実現していく」としている。



塵芥センター本社